

(結ぶ+ボランティア)  
×  
和歌山弁

和歌山大学災害ボランティアステーション

むすぼら

和歌山弁で「ら」は動詞の助動詞。  
むすぼら=結びましょうの意味です。

「むすぼら」は、和歌山大学災害ボランティアステーションの愛称です。地域に育まれ、地域のお役に立ち、地域に笑顔を増やす人づくりを目指しています。

### 活動理念

日頃から災害を「自分ゴト」と捉える

現場で学ぶ・被災者にかかわる

地元のピンチに立ち上がる

みんなを待ってます!

いざという時に大切な人を守りたい、人のために何かしたい、助け合える仲間を見つけたい、大災害でも生き残りたい、そもそもボランティアとは?など…

少しでも気になったら、むすぼらにお越しください。

学生・教職員を問わず和歌山大学構成員ならなたでもご参加できます。

メンバーになるとどうなるの?

メンバー登録していただくと、むすぼらからの情報をお届けしたり、あなたからの「やりたい」「なりたい」をお聞きしたりします。みなさんのアイデアや行動力で、楽しいイベントや有意義な企画を形にしていきます。

和歌山大学災害ボランティアステーション(むすぼら)は、和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター 災害ボランティア部会が管轄します。



主な活動拠点

## Kii-Labo

(Kii-Plusの学生オープンスペース)

東3号館(教育学部棟)1F南-103号室

\*Kii-Plusは2020年4月にスタートした和歌山大学紀伊半島価値共創基幹の愛称です。



お問い合わせ先

和歌山大学紀伊半島価値共創基幹  
災害科学・レジリエンス共創センター

〒640-8510

和歌山市栄谷930 東3号館 南-106号室

☎ 073-457-7558

✉ [musubora@ml.wakayama-u.ac.jp](mailto:musubora@ml.wakayama-u.ac.jp)



ホームページ



登録フォーム



Twitter  
[@musubora\\_Wadai](https://twitter.com/musubora_Wadai)

和歌山大学災害ボランティアステーション

知識とスキルで

生きる力を蓄える

企画調整力を磨こう

何気ない日常の中から備えは始まります。知識とスキルを蓄える楽しい学びの場を一緒に作ろう。

例えばこんなことができますよ

災害シミュレーションゲーム体験

避難所運営ゲーム体験

防災食の試作・開発

防災キャンプ体験

セミナー・ワークショップの企画

お役立ちスキルや資格の講習 などなど。

平常時

むすぼら  
で

チャレンジできること

「むすぼら」は地域と共に、防災・減災・復旧・復興に強い人づくりに取り組みます。そのための活動例をご紹介します。

遠隔地発災時

被災地への想像力を高め合おう

災害ボランティア  
& 後方支援

遠い空の下でつらく悲しい被害にあっている人に、ここからできる支援があります。

例えばこんなことができますよ

災害ボランティアバス運行

ボランティアを支える後方支援

義援金・支援金の募金活動

支援物資募集活動

遠隔からの災害VC\*運営支援

ITを使った遠隔からの情報発信支援

などなど。

寄りそい力を上げよう

復旧・復興ボランティア

わたしたちを育てくれる地域のピンチに立ち上がり、復旧・復興に力を発揮しよう。

地元発災時

例えばこんなことができますよ

災害ボランティア活動

災害VC\*運営補助

地域のニーズ調査

避難所運営ボランティア

支援物資仕分けボランティア

炊き出し

被災児童の学習支援・遊び場づくり

被災者の生活応援

話し相手・お茶飲み相手

農家や店舗などの業務再建支援

福祉施設などの事業再建支援

などなど。

できること

一緒に創って

広げていきましょう

\*VC=ボランティアセンター